



労働省玄関で座りこんだ家族の会の上京団

カッテモ、オラシメヨ

第三次中央動員メモ

九州炭労書記 宮田 明利

七月十八日 火曜 晴れ
うだる暑さ、気温は三四度を指している。前日まで参議院議員面会所に座り込んでいた私たちが(組合員、炭協、遺族上京団)は、三池現地の坑底座り込みを呼応して労働省前に開始されたCO家族のハンスト応援に駆けつけたのである。

白地に三池労組と染め抜いた鉢巻も、「CO特別立法制定を闘い」と書かれたタスキも、これ、全国をオルグ行脚し、実情を訴え続けた長かった闘いの跡を物語っている。

『七月十八日、午後一時三十分ハンスト突入』と大書きされた看板の前に整然と並んだCO家族の主婦たちの横は、一片の姿協も許さない、許されない真剣なまな

七月十九日 水曜 晴れ
夕方から少し風が立ってきた。参議院議員面会所から望む国会周辺の夜景は、これが大東京の真中かと思わせる静かである。その静の中に、こたげが異様な昂奮と熱気を帯びている。差入れのパンと牛乳に空腹をみたし、社労委の動きを注目している。

デモの主婦会、遺族の中から、ペラペラと、三人が駆け寄った。手を握り、流れる涙をふきもせずに「きつかるうけど頑張ってるね」「体に気をつけなね」お互いがお互いを励ましあっている。暮れなぞむ大手町を去った。

七月十九日 水曜 晴れ
夕方から少し風が立ってきた。参議院議員面会所から望む国会周辺の夜景は、これが大東京の真中かと思わせる静かである。その静の中に、こたげが異様な昂奮と熱気を帯びている。差入れのパンと牛乳に空腹をみたし、社労委の動きを注目している。

午後十一時、我妻副委員長が情勢報告に帰ってきた。「ただいまと、野党の調整がつき、社労委が開催される運びとなった。社労委が終れば間もなく本会議に附され通過する見通しだ」ドツと喚声があがった。

社労委傍聴者が列をつくらせて拍手の中を急ぐ。本会議傍聴者も整列する。

「やったぞ」「三年来の宿望がその目につく」人々のよきうたとしより夫婦だ

詩

ステツカをはる

高 椋 龍 生

「すみませんがステツカをはらせてください」
「ハイどうぞ 三川鉄のほく発のつですな おおつですな バッテンはく発で片輪者になかして、そりば首切るちゃひどかですな 罰かぶですよ がんばりなはれよ」
わがことのように腹をたてて、その目につく人々のよきうたとしより夫婦だ

「ハイどうぞ 三川鉄のほく発のつですな おおつですな バッテンはく発で片輪者になかして、そりば首切るちゃひどかですな 罰かぶですよ がんばりなはれよ」
わがことのように腹をたてて、その目につく人々のよきうたとしより夫婦だ

「ハイどうぞ 三川鉄のほく発のつですな おおつですな バッテンはく発で片輪者になかして、そりば首切るちゃひどかですな 罰かぶですよ がんばりなはれよ」
わがことのように腹をたてて、その目につく人々のよきうたとしより夫婦だ

「ハイどうぞ 三川鉄のほく発のつですな おおつですな バッテンはく発で片輪者になかして、そりば首切るちゃひどかですな 罰かぶですよ がんばりなはれよ」
わがことのように腹をたてて、その目につく人々のよきうたとしより夫婦だ

主婦の怒り

四山 相田 英雄



再びだました政府・会社

労働者たちの

正当な要求を

まるで

暴力団みたいに見える会社たち

そんな人が

まったくそんな人が

何処に居るのかわからない

四五八名殺されて

黒く焼けた肌だけが

真の犯人を知っていた

労働者も知っていた

黒く汚れた男たちの

叫び

叫びが地底から

その中でCOを吸った仲間たち

一日一日を憎んだ

一日一日を憎んだ

いつか吸って一生不具にされるCOガス

官嶋さんをはじめ

この苦しみを

地獄の中で

呻き、呻き、呻き、呻き

苦しんだ仲間たち

きょうも

またあすも

さびに苦しめばならぬだろう

その心を十分知っている

主婦たち

心のちぎれんばかりに

一日一日を憎んだ

一日一日を憎んだ

一日一日を憎んだ

一日一日を憎んだ

私も頑張る

大阪 明山 孝

あの三池大争議を闘われたみなさまに敬意を表します。さらに地底深く、勇敢に闘われている婦人の方々に、深い敬意の念を捧げます。

日ごろ、めまろしくつらつらしているような私ですが、このようなすばらしい熱情をみせつけられるた

合理化攻撃に抵抗する

全電通労働者

いま合理化攻撃はこの企業でもはげしさを加え、人間性を奪うまでに至っている。このほど全電通労組北福岡支部の機関紙「前進」が掲げた。ここでは娘さん組合員たちが、おどろへきねばりを発揮して体制に抵抗している。同記事から、記事の一節を紹介しよう。

わかれれば公社に聞きたい。なぜ公社は夏期手当を一〇％も減額しておいて、不法賃定の直接当事者たる課長に親しいのか、子どもはいないのか、人間の喜びは理解できないのか。

自らの非人間性を省みず、その責任の一切を労働者に転嫁しようとする会社のやり方は断じて許すことができない。また不当処分を容認することは、必要以上の管理者を動員し、局内を威圧的に行うことである。ある組合員を局長室に連行するため十人ものぼる管理者を配置するに至っては、正気のサタとはいえないものである。

われわれの人間性を守りぬくために、諸君が否定しようとする子どもたちの未来のためにも、われわれは歯をくいしばっても抵抗する。

(以上抜粋)